

2014.04.22-2

高森市穿戸金比羅宮(うけどこんびらぐう)
のイチリンソウ、ニリンソウ





イチリンソウ（一輪草）キンポウゲ科



穿戸金刀毘羅宮

由緒書き

この穿戸の地は昔から神代うげとのふるさととて祀られており、昔には大古の社である高森阿蘇神社や古墳遺跡が多くある処が高森翁神の地ではなかりと恐ろしむる。また穿戸羅漢山の裏手にあたり山青く谷深く名水豊かなるふるさととてある。然しながら清流ほとけしるが故にしはは水害に見舞われぬのが悩みの種であった。そこで明治四十年地母古老堀角次郎氏は組内一向に相回り水患感謝と水難防止請願のため四国の金刀毘羅宮にお参りして、神体の分神をお受けして帰り、自宅屋敷内の高台に石のほころも建立祭祀しここに穿戸金刀毘羅宮を創建した。以来組内一向は当社を守護神として絶えずことごとく祭祀奉神につとめて合意に在る。その後しばしば起きる水害も大難は小難と過こして来たが昭和六十二年五月三日に未曾有の大水害に見舞われた。山は崩れ家屋田畑流出倒壊しあたり一面流木若石の河原と化した。が不思議なことに、ごんびらさんだけは何の被害もなく河原の中にボツンと残ったのである。また昭和二十六年又の大火災では鳥居や神木など焼き尽くす中で、神座拝殿も何一つの被害もなく火難を逃れた。組内一向この靈験新たなる事実を目の当たりにして、ますます神恩に感謝奉神して災害復旧に努め今日の美田となった。尚国県町当局の支援により、砂防工事、河川改修、道路整備がなされて以来水害も心配もなくなり四季折々花咲き鳥うたう、自然がいはいの我がふるさとに出来たのである。組内一向その靈験新たなる事実と創建以来の由緒を後世に伝えるためにここに記するものである。

付記

- 御祭神 大物主神・大國主命 令し、崇徳天皇
- 御真言 オンヒラヒラコンビラコンテイソワカ(三回)
- 御神徳 火難よけ 水難よけ 高亮奉齋 室内安全の神 治気全快 大願成就 自神
- 創建 明治四十年十月
- 神座拜殿完成 明治四十三年 波野中江神業奉納 大祭執行 組内一向
- 神殿改修 平成五年四月 大祭執行 佐藤文男氏外組内一同
- 拝殿改修 平成六年四月 大祭執行 今村俊男氏堀健祐氏建組内一同
- 主たる寄進者 今村俊男氏堀健祐氏
- 兼松子方佐藤藤美氏 外組内一同

脇持佛

- 將軍地藏大菩薩 平成三年五月 堀健祐氏 建立 以上敬神
- 平成十七年 四月吉祥日 穿戸奉組
- 堀日出男
- 佐藤文男
- 光木満
- 北みやえ
- 穴見三生
- 堀健祐
- 今村克彦

穿戸金比羅宮（うげとこんびらぐう）由緒書き



穿戸金比羅宮（うげとこんぴらぐう）







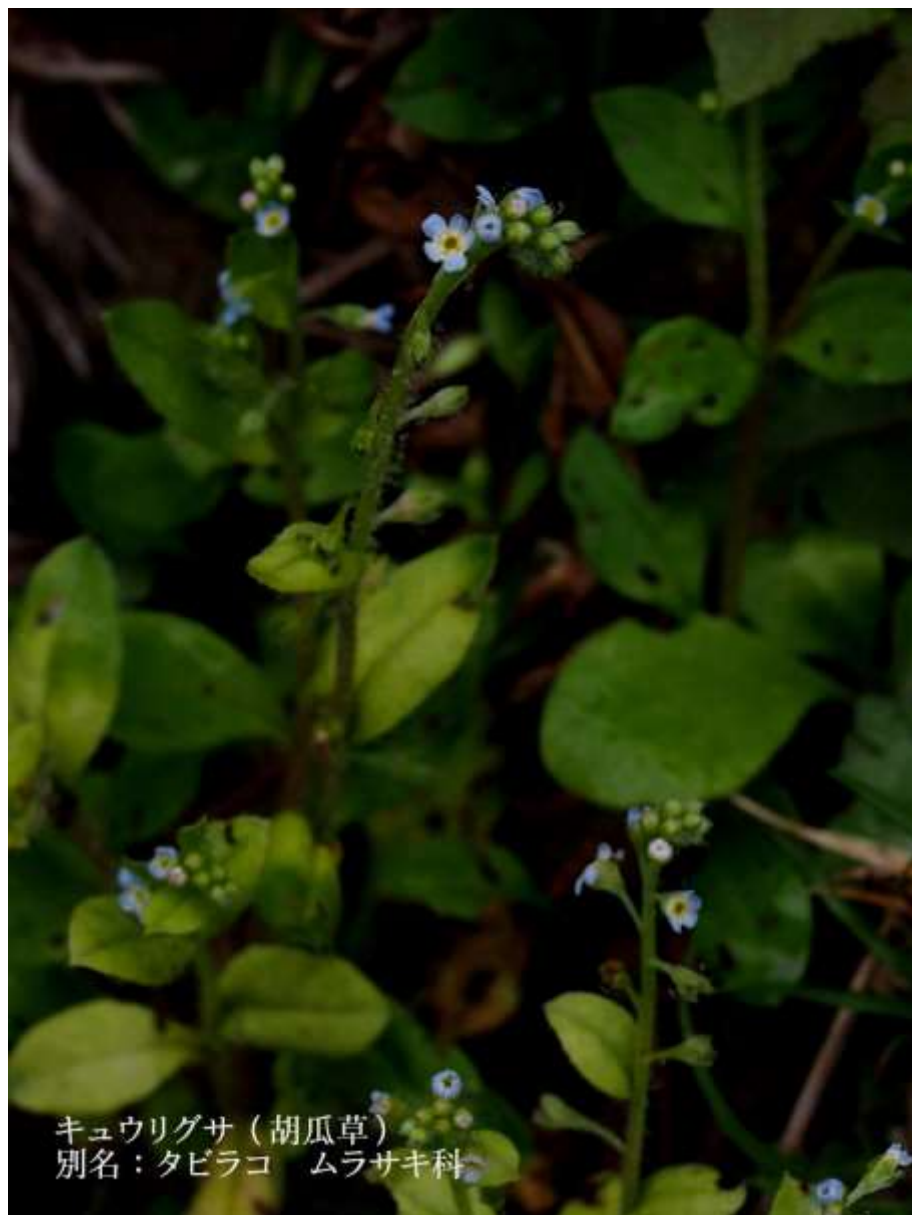
ヒメオドリコソウ（姫踊子草）シソ科



ヤマフジ（山藤）マメ科



ノジスミレ（野路堇）スミレ科



キュウリグサ（胡瓜草）
別名：タビラコ ムラサキ科



キュウリグサ（胡瓜草）
別名：タビラコ ムラサキ科



オオイヌノフグリ（大犬の陰囊）
ゴマノハグサ科













ヤマブキ（山吹）八重
バラ科 落葉低木



ツクシショウジョウバカマ（筑紫猩々袴）ユリ科

根子岳1408m



高岳1592m

根子岳1408m





モクレン（木蓮）モクレン科